

2006 年 7 月 10 日

BMW Group の革新的な塗装技術

Group 初、MINI オックスフォード工場に導入

ミュンヘン / オックスフォード発(7月7日):このたび BMW Group は、MINI オックスフォード工場に革新的な塗装技術を導入しました。IPP(統合塗装処理)と呼ばれる非常に効率的なシステムは、BMW Group が誇る高品質の塗装基準を満たしつつ、長期にわたるエネルギー削減及びボディーシェルの VOC 排出量削減が可能となります。さらに IPP の導入により、オックスフォード工場の年間生産台数を最大 24 万台に拡大することが可能となります。

IPP は従来の下塗り工程やオープン過熱による塗装膜形成工程が必要ありません。下塗り工程に代わるのは、新しく開発された 2 層のベースコートです。2 層の“ウェット・オン・ウェット”塗装工程では、第 1 のベースコートが下塗りの役割を果たし、第 2 のベースコートが色、効果、深みなどといった視覚的特性をカバーします。そして従来通りベースコートの上にはトップコートが用いられます。このように新しい IPP システムは、視覚的にも耐久性においても従来の塗装処理と同様の高品質を保っています。

BMW Group の車体塗装シェル技術部門のトップ、ゲルハルト・ブリュッコムは、「IPP は開発段階で広範囲にわたる分析及び試験を受けました。我々の製品が誇る視覚的かつ機能的に高品質の規準に適合しており、長期にわたってその品質は保証されています」と述べています。

IPP の導入は塗装工程を効率化させると同時に、溶剤型の下地用塗料を使用しないため BMW Group の環境目標達成に向けての推進力となります。IPP を採用することにより、オックスフォード工場の塗装部門では 10% をはるかに上回るエネルギー及び VOC が削減されます。

BMW Group オックスフォード工場のマネージング・ディレクター、アントン・ハイス博士は、「IPP 導入のおかげで、下塗り工程のためのスペースや設備に代わって迅速かつ効率的に新たなベースコートのラインを設置することができました。この変更に伴う生産の混乱は、数週間で抑えられました。新しいベースコートのラインが設置されたことで、中期的な生産台数は約 24 万台まで増産することが可能となります」と述べています。

今回の新しい技術の導入及びオックスフォード工場の塗装部門への新たな塗装ライン設置は、BMW Group が昨年 2 月に発表した MINI 生産工場に対する 1 億ポンド以上の投資の一環として行われました。2001 年から生産が開始された MINI に対する需要は当初の予想をはるかに超え、工場は現在も 24 時間稼働しています。アントン・ハイス博士は、「塗装部門を一新して IPP を導入する理想的なタイミングでした」と述べています。

MINI 専用の生産工場であるオックスフォード工場は、BMW Group の生産ネットワークの中で今回初めて新しい塗装工程を導入しました。2006 年 5 月には全ての色の切り替えが完了しています。

その他の BMW Group 生産工場に関しては、塗装工程内で交換や修理が必要になった時点で、ケースバイケースで IPP の導入が検討されます。